

矢部川の平穩を願う

世話人会が延命地藏盆

みやま

みやま市瀬高町小田の矢部川沿いに建つ延命地藏を祭る「延命地藏盆」が24日、同地藏前で行われた。訪れた人は川の氾濫を防ぐ石墨造りの人柱になった少女や川で亡くなった人たちの冥福を祈った。



人柱となった少女などの冥福を祈った地藏盆

矢部川は大雨の際に氾濫し、田畑などに大きな被害を与えていたため、400年ほど前の江戸時代、川の流れが激しくぶつかる場所に石墨を築いた。小田にも唐尾刎（かぶせ）が造られたが、この時、「お染め」という少女が工事の人柱となった。延命地藏はこの少女をまつて建てられたもので、現在は地域住民らでつくる延命地藏世話人会が守っている。

地藏盆は毎年行われており、この日はそろいの法被を着た世話人会のメンバーがちょうちんや竹灯籠で地藏の回りを飾り付けた。筑後市の林鐘院住職、三宅明信さんが経を上げると、訪

れた人も焼香をして亡くなった人たちに手を合わせ、川の平穩を願っていた。その後、世話人会がお菓子などを振る舞い、夜になると、竹灯籠に火をともして参拝者をもてなした。

参拝に来た同市瀬高町小

田の女性（82）は「若い頃からお参りに来ていて、今でも月に3回は来て家内安全や孫の健康などをお願いしています。これからも元氣なうちは来たいですね」と話していた。

（矢野 大輔）